

2021年度 尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業

地域で支え合う子育て支援—やんちゃんことの連携を通して—

黒木 晶 (児童教育学科)

はじめに

2020年度より、黒木ゼミの学生は、特定非営利活動法人「やんちゃんこ」と連携し、活動している。

黒木ゼミには、大学卒業後、主に保育職に就くことを目指す学生が所属している。学生は、これまでの授業での学びと、保育実習経験から、理論と実践の結びつきについて気づき、その大切さを実感している。また、知識と経験を擦り合わせながらさらに学びを深めている段階である。子育て支援については座学での学びが主で、保護者と直接的に関わる実体験としての学びはほとんど得られていない。そこで、地域で子育てを支えている「NPO 法人やんちゃんこ」に協力いただき、学生が地域の実態に応じた子育て支援について学ぶことを目的として活動を行った。また、発達特性に関して悩んでいる方の実態を知り、学生自身発達理解の理解ができるよう、「やんちゃんこ」と本学主催の子育て領域講演会(オンライン)に参加した。

活動内容及び実績

〈協働させていただいた市民活動団体〉

特定非営利活動法人 やんちゃんこ

〈活動時期〉

2020年7月～12月

〈場所・内容〉

- ・わいわいステーション 見学・参加、実践
- ・こども通所サービスにじいろプラス 見

学

- ・認可外保育園こども広場ういずつと参加
- ・子育て領域講演会 (オンライン開催) スタッフとして参加

わいわいステーションにて

わいわいステーションは、平成18年にスタートした「つどいの広場」であり、遊びや体験学習のサポートを行っている。

まずは、わいわいステーションの見学や、利用されている親子と触れあうことから始めた。その後、学生が自分達にできることを考え、再度参加し、実践を行った。

〈学生自身で考えた、わいわいステーションでの活動〉

日時：2021年12月8日 11:00～12:00

内容：親子でできる手形を使ったクリスマスツリー製作

ねらい：季節に合った製作を行う。普段、自宅ではなかなかできないようなことを行い、楽しむ。

参加人数：5組(コロナ対策で人数制限あり)

活動前には、どのような内容が良いかや、利用されている方の動きを想定した自分達の動きと、必要な準備について何度も話し合いをし、準備、リハーサルを行った。

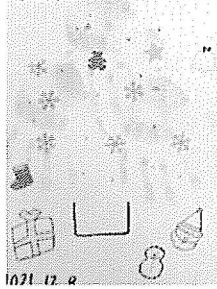
(準備物)

- ・スタンプ(肌に優しく、水洗いや濡れたティッシュで落とせるもの)

- ・ カラーペン
 - ・ ウエットティッシュ
 - ・ 飾りつけるもの (星、雪の結晶、くまなど)
 - ・ 硬化ケース、ビニール袋
- (製作手順)

- ①手にインクをつける。
- ②画用紙に手を置いて、手形を押す。
☆逆三角形に開くように押す。
☆色を変える場合はその都度ふき取る。
- ③画用紙を上下反対にし、一番上に大きな星を貼る。
- ④カラーペンなどで自由に飾り付けをする。☆思い出として空いたスペースに日付を書く。
- ⑤硬化ケースにいれて完成。

完成イメージ図



(リハーサルの様子)



(実際に製作を行った様子)

(製作を体験してもらった保護者の感想)

- ・ 手を汚す遊びはなかなか家ではやり辛いので体験できて良かった。
- ・ 普段できない手形アートを楽しませてもらえるのが良かった。
- ・ 初めての子どもと一緒に創作が楽しかった。
- ・ ぐずってしまったが、快く待ってくれてありがたかった。
- ・ いろんな年齢の子でも楽しく創作できる内容で良かった。

実践後には、濱田先生に指導いただきながら活動の振り返りを行った。

学生自身、気づいたことや考えたことを言葉にすることで考えを整理する時間となった。自分達がねらいとしたことが、濱田先生のお話くださった言葉の中にもあり、学生の自身につながった。

子育て領域講演会 (オンライン開催) での具体的な活動内容

① 学生について

「やんちゃんこ」主催の子育て領域講演会 (オンライン) にスタッフとして参加させていただいた。テーマは、「発達特性の理解と関わりについて」であり、兵庫県立尼崎総合医療センター・小児科医長の石原 剛広先生が講師を務めた。

学生は会場準備や片付けを行い、講演会の内容もその場で学んだ。

② 講演会の参加者について

講演会はオンラインで開催した。後日、YouTube で閲覧できる形をとり、申し込み登録人数は 627 人、視聴回数は 1707 回であっ

た。講演会後に講演会に関するアンケートの協力を依頼し、多くの方からの回答が得られた。参加者は、職場や子育て、学習のために必要とする等の理由で参加されていた。講師が石原先生だからという理由での参加もあった。講演会の満足度は高く、「期待した以上に良かった」54.5%、「期待した通りに良かった」45.5%であった。

オンライン配信についての回答は39件あり、「いつでも何度でも視聴できたのがありがたかった」、「今はまだ幼いが、そのうち子どもにも聞かせたいと思う日が来そう」、「資料があるので分かりやすかった」等あった。今後どのような講演会を期待するかについては、25件の回答があり、「発達特性について、具体的な実践や事例に基づいた内容」、「乳児期、幼児期、思春期の特性、対応の仕方」、「発達特性をもつ子どもや保護者への支援について」等あった。

これらのことから、今回のテーマ及び講演内容は、昨年度同様、子育てに悩みを抱えている保護者の方、支援する立場にある方など、幅広い方々の助けになるものであったことが分かった。

まとめ

活動する中で、学生が学んだことについて以下に記す。

活動全体を通しての感想、学び

- ・年齢、発達段階、障がいの特性など子ども一人ひとりに合わせた関わりが大切だと改めて感じる機会になった。
- ・子どもだけと関わるのではなく、保護者との関わりも大切に保育を行い、地域で子育て支援を行いたいと思った。
- ・製作活動では、コロナ禍の対策を考える

必要があり悩んだが、みんなで検討を重ねていく大切さを感じた。

活動を通して、学生自身が子育て支援に関与することの大切さについて気づき、新

- ・製作活動だけでなく、親子で触れ合える運動遊びの活動を開催し、様々な子どもと関わり学べる機会を設ける。
- ・発達特性のとらえ方を理解しながら、様々な人に知ってもらえるよう発信する。

たな課題を見つけた。

発表は、「まちづくり解剖学」で行う予定であったが、コロナ禍のため、実施できなかった。そのため、学内のラーニングコモンズ（まちの相談室）に、学生がまとめた活動報告を掲示する形をとった。

謝辞

特定非営利活動法人やんちゃんこ代表理事の濱田英世先生には、実践の場を提供いただきました。また、子育て領域講演会やその他の多くの場面で学生にご指導いただきました。心より御礼申し上げます。

NPO法人やんちゃんこの職員のみなさま、参加されたみなさま、そして講演会講師である、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科医長の石原剛広先生、本学人間健康学部人間看護学科金岡緑教授に心より感謝申し上げます。

最後に、「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」に携わるみなさまに厚く御礼申し上げます。